

大和合金 欧・航空機メーカー向け 黄銅系軸受け 初受注

銅合金鑄鍛造メーカーの大和合金（本社・東京都板橋区、社長・

萩野源次郎氏）はこのほど、欧州の大手航空機メーカー向けでランディングギア用のブッシュを受注した。ブッシュは鍛造や押出で製造する円筒形の素材。航空機部品メーカーが足周りで用いる軸受けに加工している。6、7月にかけて数百個を納入する計画。欧州メーカーの新造機で用いられるのは初めて。

これまで同社では、アルミ青銅製のものを用いて国内や中国に供給。今回は新たな黄銅系の素材で新規受注を獲得した。黄銅をベースに亜鉛やアルミなどを添加した合金は、耐摩耗性や摺動性が高く軸受けに適している。大和合金が供給するのは安全性の確保に重要な素材。供給には航空機の脚を製造するメーカーからの認定が必要となる。工場の監査も受け、昨年10月には品質・財務など多岐に渡る項目をクリアしていた。萩野社長は「今回の新造機向けの受注を契機に、欧州機のメ

ンテナンス関連でも素材の供給を強められ

ば」と期待している。同社では航空機関連分野を15年度までの中期経営計画で成長市場として位置づけている。今後も新規の素材や客先を開拓し、ランディングギア向けの受注を拡大させていく考えだ。

